

## 第 84 回講演大会講演募集案内

申込（原稿同時提出）締切り 昭和47年 7月31日（月）

本会は第84回講演大会を昭和47年10月18日（水）、19日（木）、20日（金）の3日間名古屋大学工学部（名古屋市千種区不老町）において開催することになりました。下記要領により講演募集をいたしますので、奮つてご応募下さるようご案内いたします。

講演希望者は昭和47年7月31日（月）までに申込用紙と講演概要原稿を提出して下さい。

### 講演ならびに申込要領

1. 講演内容 鉄鋼の学術、技術に直接関連あるオリジナルな発表。  
（設備技術、IE などに関する発表を歓迎いたします）
2. 講演時間 1 講演につき講演15分、討論5分
3. 講演前刷原稿
  - 1) 原稿は目的、成果、結論が理解しやすいよう簡潔にお書き下さい。
  - 2) 設備技術に関する原稿には計画にあつての基本方針、特色、成果等を必ず盛込んで下さい。
  - 3) 商品名等は原則としてご遠慮願います。
  - 4) 謝辞は省略して下さい。
  - 5) 原稿枚数は原則として所定のオフセット用原稿用紙（1600字詰）1枚とします。しかし内容的に止むを得ない場合は2枚までを認めます。（いずれも表、図、写真を含む）原稿が2枚にわたり執筆された場合には編集委員会で査読のうえ1枚にまとめなおし願うことがありますのであらかじめご了承下さい。
  - 6) 原稿は別添「講演概要原稿の書き方」をご覧のうえ、タイプ印書あるいは黒インクまたは墨を用い手書きとして下さい。
  - 7) 原稿用紙は別記（N 108 ページ）のように有償頒布いたしております。
8. 講演申込資格 講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は、所定の入会手続きを済ませたうえ、講演申込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続きをされるよう希望いたします。
9. 講演申込制限 講演申込みは1人3件以内といたします。
10. 申込方法 本誌添付の講演申込用紙に必要事項を記入の上、講演前刷原稿とともにお申し込み下さい。
11. 申込用紙の記載について
  - 1) 申込用紙は(A)、(B)とも太字欄をのぞき楷書でご記入下さい。
  - 2) プログラム編成上の参考といたしますので、「講演分類欄」に講演内容が、次ページ講演分類のいずれに該当するか、番号でご記入下さい。
  - 3) スライドの要否は該当するものに○印をつけて下さい。
  - 4) 講演者には氏名の前に○印を、また研究者氏名にはローマ字読みを付して下さい。
  - 5) 講演要旨は、情報管理のための文献検索カードに利用いたしますので講演内容が明確に把握できるようおまとめ下さい。
12. 申込みの受理 下記の申し込みは理由のいかんにかかわらず、受付はいたしませんので十分ご注意下さい。
  - 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申込
  - 2) 必要事項が記入されていない申込
  - 3) 講演内容が鉄鋼の学術、技術に直接関連がないと認められる場合
  - 4) 単なる書簡または葉書による申込ならびに電報、電話による申込
  - 5) 文字が読みづらいもの、印刷効果上不適当なものと認められるもの
13. 申込締切日 昭和47年7月31日（月）17時着信まで  
申込用紙、講演前刷原稿を同時提出のこと。
14. 申込先 100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館 3階  
（社）日本鉄鋼協会 編集課

## 講演分類

製 鉄			製 鋼			加 工						
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
製鉄基礎	原料・燃料	高炉製鉄	特殊製鉄	フェロアロイ	製鉄耐火物	製鋼基礎	溶解・精錬	造塊	製鋼耐火物	塑性加工	熱処理	表面処理・防食
加 工			性 質									
14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
鑄造	粉末冶金	溶接	金属物理	金属組織	鋼の性質	鉄鋼材料	鑄鉄・鑄鋼	分析	試験・検査技術	計自動制御	IEその他	その他

## オフセット用原稿用紙有償頒布について

講演大会における講演前刷原稿は、所定のオフセット用原稿用紙を用いお書きいただいておりますが、下記により有償頒布いたしますのでお知らせいたします。

講演申し込みは別掲のごとく前刷原稿を同時に提出することになっておりますので、講演発表ご希望の方は締切日より20日以上余裕をもって購入手続をとられるようお願いいたします。

## 記

## 1. 頒布料金 1枚5円

(頒布の枚数は下記のとおり限定いたします。なお料金は送料込)

5枚 60円, 20枚 165円, 40枚 400円

10枚 95円, 25枚 210円, 50枚 450円

15枚 130円, 30枚 245円

100枚以上は小包となりますので係までお問い合わせ下さい。

## 2. 申込方法

①オフセット用原稿用紙, ②枚数, ③送付先明記のうえ, ④料金(切手でも可)を添えお申し込み下さい。

## 3. 申込先

100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階 日本鉄鋼協会 編集課

## 鉄と鋼「計測特集号」原稿募集のお知らせ

計測はこれまでの鉄鋼業の発展に大きな役割をはたして来ました。これまでではどちらかと言えば、市場に提供された、熱電対なりオルフィス流量計と言った、従来からある計測器にたよって来ましたが、技術の進歩にともない、計測に対する要求も高度化して来ました。計測は、単に、操業の管理または制御のみならず、行程の解明に研究開発の面でも非常に重要になって来ました。今回鉄鋼に対する新しい計測技術に関し、特集を企画することになりましたので関連した論文あるいは技術報告をふるつてご投稿下さるようご案内いたします。

## 1. 操業変数の計測

(例えば高炉羽口微圧振動)

## 2. 製品品質の計測

(例えば、鋼材硬度の on-line 計測)

## 3. 新しい計測法の応用

(赤外線, レーザー, 等の応用計測)

## 記

## 1. 投稿締切日

昭和47年6月30日(金)

## 2. 発行予定

「鉄と鋼」第59年第5号(昭和48年4月号)

## 3. 原稿送付先

100 東京都千代田区大手町 1-9-4 経団連会館3階 日本鉄鋼協会 編集課

# 昭和48年春季(第85回)講演大会討論会討論講演募集のお知らせ

— 申込締切：昭和47年8月14日 —

## 記

### 1. 討論会テーマ

#### (1) 装入物の性状と高炉操業について

座長 鈴木 駿 一君

高炉操業においてその通気性に対し装入物性状のおよぼす影響は大で特に装入時の形状、還元時の粉化、溶融帯の挙動が重要であろう。これらを推定するために熱間の還元時の挙動の試験法として熱割れ、還元粉化、ふくれ試験などが行なわれている。この討論会では、これら試験結果と操業結果を振り返つて装入物の性状としてどのような性状が必要か、操業にマッチするような試験はどうあるべきかなどについて討論したい。

#### (2) 連続鑄造の凝固について

座長 高橋 忠 義君

連続鑄造の凝固現象において、操業上および鑄造条件上、一般鑄造凝固条件と比較して凝固形態に強く影響する諸因子に注目すると共に、凝固組織と偏析現象に主体をおいた基礎および実際的な研究内容の発表を望みます。

今後このような討論を積重ねることにより連続鑄造に関する問題点の解明に努力したい。

上記のような主旨でありますので、できるだけ重要現象は卒直に述べられることを期待します。

#### (3) 熱延原板性状が冷延鋼板の形状におよぼす影響について

座長 児子 茂君

平坦な形状のすぐれた冷延鋼板をうるためには、まず熱延原板の形状(クラウン、プロフィール)があげられる。熱延原板の形状は圧延材の材質、スラブ加熱条件、熱延作業条件(ロールクラウン、ロール材質、ロール摩耗度、ロール及び板の冷却の問題など)が考えられ、次に冷延作業条件(圧下率配分、ロールクラウン、張力及び板とロール間の摩擦条件)スキンパス作業条件(ロールクラウン、ロールベンディング)および精整ラインのレバラー矯正条件が考えられる。また硬度に代表される板幅方向のこれ等熱延原板の内質差も形状に影響を与える。

今回のテーマとしては、特に熱延原板の形状が最終の形状におよぼす影響因子を抽出して述べようとするもので、特に熱延板のクラウン、プロフィール(局所的な形状を含む)および内質が最終成品の形状におよぼす影響を実際の操業のデータを基として述べようとするものである。

#### (4) 非調質高張力鋼の制御圧延—冷却により得られる性質

座長 荒木 透君

近年急速に発展しつつあるコントロールドローリングの手法と合金元素の組合せにより、きわめて強度と靱性のすぐれた高張力鋼を焼入焼もどしの調質によらないで得られるようになりました。以下の項目に関連する討論会向きの研究報告の講演出講を公募いたします。

1) 微量の合金元素 Nb, V, Ti がそれぞれ、パーライト・レデュースト鋼の制御圧延冷却処理によつて得られる材質に対して果す役割の比較( $\gamma$ ,  $\alpha$ の再結晶成長阻止効果, 変態に対する影響, 固溶および析出現象, 介在物への効果, 等の比較)

2) 制御圧延により得た微粒処理鋼の強化機構と靱性との関連解釈(Petchらの取扱い, 析出強化因子の評価, 変態を含む加工熱処理履歴による微細下部構造の寄与, 等)

#### (5) 鉄鋼中の不純物と格子欠陥

座長 橋口 隆 吉君

不純物と転位の相互作用, 不純物と点欠陥との相互作用, 格子欠陥的見地から見た不純物の挙動などに関する討論. 鉄以外のBCC金属も含む.

### 2. 申込締切日 昭和47年8月14日(月)

### 3. 申込方法 本誌綴込みの申込用紙(ブルー色)に必要な事項ならびに申込書裏面に450字程度の講演のabstractをお書きのうえお申し込み下さい。

### 4. 討論講演の採否 討論講演としての採否は、前記ご提出のabstractにより検討のうえ決めさせていただきますので、あらかじめお含みおき下さい。

### 5. 講演前刷原稿締切日 昭和47年11月4日(土)

討論講演として採用された方は、本会所定のオフセット原稿用紙4枚以内(表、図、写真を含め6,700字)に黒インクまたは墨をもちいて楷書で明りようにお書きのうえ、ご提出下さい。

### 6. 講演テーマ・講演者の発表 「鉄と鋼」第59年第1号(昭和49年1月号)にて発表いたします。

### 7. 講演内容の発表 「鉄と鋼」第59年第2号(2月号)に講演内容を掲載いたします。

### 8. 討論質問の公募締切日 昭和48年2月末日 前記2号掲載の講演内容をご覧のうえ、質問対象講演を明記のうえ、本会編集課宛て送付下さるようお願いいたします。

申込先：100 東京都千代田区大手町1-9-4 経団連会館3階  
日本鉄鋼協会編集課 Tel. 03-279-6021 (代)

## 真空冶金シンポジウム講演募集

共催 日本鉄鋼協会, 日本金属学会

真空冶金に関係しておられる研究者により, 研究情報の交流, 問題点の認識などを通して, 研究の発展に寄与する場をもちたいと思います. 1973年6月には第4回真空冶金国際会議が東京で開催されることでもありますので, このシンポジウムへの御参加と講演御応募を御願いたします.

期 日 1972年11月14日(火), 15日(水)

場 所 早稲田大学 小野講堂

### シンポジウム内容

日程の都合上, 真空冶金全般にわたる問題は招待講演(4篇を予定)により行い, 一般講演は下記のように製錬関係に重点をおきます.

- A. 真空冶金に関連する基礎的研究(動力学, 熱力学など)
- B. 真空製錬, 真空精製(各種真空溶解, 真空脱ガス, 真空蒸溜, 熱分解, 真空還元など)
- C. エレクトロスラッグ リメルティング

### 講演申込

申込期限: 1972年8月31日

申込方法: ハガキに題名, 要旨(プログラム用), 著者氏名, 所属, 連絡先を明記のうえ, 下記宛にお申込み下さい.

### 講演予稿

申込みに従い予稿用オフセット原稿用紙と執筆要領を折返しお送りしますので, 1972年9月30日までに下記に御送附下さい. (なお講演時間は約20分程度と予定しています)

申込先 〒100 東京都千代田区大手町1丁目9の4 経団連会館

日本鉄鋼協会 真空冶金国際会議事務局(世話人: 東北大選研, 白石 裕, 矢沢 彬)

## 第23回塑性加工連合講演会講演募集

共催: 軽金属学会, 高分子学会, 精機学会, 日本機械学会, 日本金属学会, 日本材料学会, 日本伸銅協会, 日本塑性加工学会, 日本鉄鋼協会 幹事学会: 日本塑性加工学会

日 時: 昭和47年11月8日(水), 9日(木), 10日(金)

場 所: 新日本製鉄(株)八幡製鉄所 教育センター(北九州市八幡区中尾町1丁目)

講演申込: はがき(横書き)に「第23回塑性加工連合講演会講演申込」と題記, (1)講演部門の分類番号, (2)題目, (3)概要(50字以内), (4)所要時間(20分以内), (5)スライド(有無), (6)氏名, 所属学協会名および会員資格(連名の場合は講演者に\*印), (7)勤務先, (8)通信先を明記のうえ下記にお申し込みください.

### 講演部門の分類番号

1. 理論および弾塑性解析
2. 計測および材料試験
3. 材料および挙動
4. 工具
5. 潤滑
6. 加工機械
7. 圧延
8. 押出し
9. 鍛造
10. 引抜き
11. せん断
12. 板材成形
13. 転造
14. 矯正
15. 表面加工
16. 高速加工
17. 高圧加工
18. 接合
19. プラスチックスの加工
20. ロール成形
21. スピニング
22. その他

注 1. 講演内容はすでに発表されたものでもさしつかえないが, 最近の研究に属するものが望ましい.

注 2. 講演は1人1題目に願います.

申込先: 社団法人日本塑性加工学会

郵便番号 106 東京都港区六本木 5-2-5 トリカッビル内

申込締切: 昭和47年7月29日(土)

講演論文集: オフセット印刷とし, 1292字詰原稿用紙4枚以内(図・表を含む)

詳細執筆要領・原稿用紙等は後日講演者あてお送りいたします.

原稿提出期限: 昭和47年8月下旬の予定